

神奈川県立中原支援学校における学校運営協議会開催結果

○ 本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

会議等名称	令和5年度神奈川県立中原支援学校 第3回学校運営協議会		
開催日時	令和6年2月27日(火) 9:40~11:50		
開催場所	本校 支援ルーム		
出席者	学校運営協議会委員9名、事務局13名		
次回開催予定日	令和6年6月頃		
問合せ先	神奈川県立中原支援学校副校長 坂戸 博子 電話(044)755-5018		
下欄に掲載するもの	・議事録・議事概要	公開を概要とした理由	
会議等経過	<p>○開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会長挨拶</li> <li>・校長挨拶</li> </ul> <p>(1) 学校評価の年間評価報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学部・分教室の年間評価について</li> <li>② 各グループの年間評価について</li> </ul> <p>(2) 切れ目ない支援部会報告</p> <p><b>【学校関係者評価】</b></p> <p>1 教育課程・学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価が「表情が変わった」等で止まってしまっている。評価方法として、どのような力が身についたかについて、もっと具体的に示せると良い。→グルーピングをして教科について複数の教員で検討し、授業ごとの評価は毎回行っている。アンケートを定期的にとって、教員から見て子どもにどのような力がついたかや、深い学びについて、回を重ねるごとに記述が増えた。いろいろな視点からの評価を工夫した。</li> <li>・地域に向けて情報発信の仕方を工夫していくと良い。</li> </ul> <p>2 児童・生徒指導・支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部関係機関との連携を行なっている中で、学部コーディネーターが組織的にたくさん関わっていけるようにしていきたい。分掌で工夫したことを今後生かしていきたい。</li> <li>・ICT機器活用について、視線入力装置等の機器をそろえられるように働きかけることも必要である。特別支援学校では、「chromebook」を活用し、画像・映像を見せる、自分たちで調べて見つけるという活用方法が、主体的・対話的で深い学びになるのではないかと。</li> <li>・ICT機器は、コミュニケーションのツールとしても活用できる。</li> <li>・視線入力をするには「chromebook」よりは「iPad」の方がいい。県は「chromebook」を活用するように言っているが、保護者的にはどちらがよいか判断が難しく、活用も難しい。</li> <li>・家にWi-Fiの環境があれば、長期休業中にリモートで面談もできる。</li> <li>・保護者の期待も高く、学校としても取組を進めていかなければならない。</li> </ul>		

### 3 進路指導・支援について

・企業は、障害者雇用する方法がわからない人もいて、行政の説明会が行われている。障害のある方への接し方等がわからず最初は心配するが、乗り越えれば雇用しやすくなる。地元の企業に対しても交流があってもよいと思う。文化祭等の学校見学で、生徒のことを知るチャンスがあるとよいと思う。

・企業だけでなく、社会福祉協議会や行政も、学校でどのような進路指導が行われているのか、どのような取組がなされているのかをもっと知りたい。進路ガイドブックを事業者の皆さん等にも発信していけるとよい。

・進路先はたくさんあるし、企業も業種がたくさんある。この業種は、このような人が向いているという情報もあると、保護者に伝わるのではないか。

→進路ガイドブックはホームページにアップする予定である。

・求められる人物像がトピックに入ってくると、保護者の視点も変わるのではないか。

・様々な立場からの意見が聞けるのが、学校運営協議会を開催する意味である。開かれた教育課程、どのような卒業生を求めているのか、その力を身につけるために教育活動があり、求められることが具体的に見えてくると、充実すると思う。

・キャリアパスポートは自分自身を知るものと言える。得手不得手を知って、目標を立てて、活動して、評価していく。うまくできたこと、課題だったこと等、自分を振り返っていく。

・小学部のキャリアパスポートは、教員と一緒に写真等の具体物を見て振り返っている。それを積み重ねていって履歴にしていける。「好きなものが広がった」「こんなに多くの人と関わった」等がわかっていく。

### 4 地域等との協働について

・先生方が学校運営に努力していて、児童生徒のことを考えていることがわかった。どのような学校なのかかわかると、地域住民も温かい目で見守り続けることができるので、発信を続けていってもらえると良い。自治体は、回覧がなくなり、各家庭に文書で配布するようになった。文書を用意してもらえれば目には留まると思う。回覧板が復活すれば、また知る機会は増えると思う。

・「X」の運用に難しさを感じている。情報発信の方法に良いものがあれば知りたい。→社協にコーディネーターがいる。学校行事に参加しないか、交流しないか等を社協に伝えると繋げてくれる。

### 5 学校管理・学校運営

・無事、工事が終わってよかった。地域の方で、工事のことで苦情を言われる方はいなかった。

・ヒヤリハットは数が減ればよいということではなく、多く出して共有していくことも大切なので引き続き取り組んでいく。

・職員の不祥事防止のために、4月当初の辞令交付のときの話を疎かにしないことが大事だと考える。

○閉会

・校長挨拶